第７期吹田市高齢者保健福祉計画
・介護保険事業計画にかかる
高齢者等実態調査報告書

ダイジェスト版

平成２９年(201７年)３月

吹　田　市

■調査の概要

1　調査の目的

第７期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に当たり、高齢者の実態を把握し、高齢者の保健・福祉・生きがいづくりへの支援や介護予防事業、介護保険サービスの総合的な推進を図るための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2　調査設計

（１）調査対象：それぞれの調査ごとに2,000人を無作為抽出しました。

調査の種類	調査の対象　平成28年(2016年)12月末時点の吹田市民
①要介護認定者調査	要介護認定を受けている市民
②非認定・要支援者調査	65歳以上の市民と、要支援認定を受けている市民

（２）調査方法：郵送による調査票の配付及び回収
（３）調査期間：平成29年(2017年)２月23日から３月8日まで

3　回収結果

	要介護認定者調査	非認定・要支援者調査
①発送数	２，０００件	２，０００件
②不到達数	５件	２件
③実発送数	１，９９５件	１，９９８件
④有効回答数	１，２２２件	１，６１４件
⑤有効回答率（④／③）	６１．３％	８０．８％

4　調査の集計方法

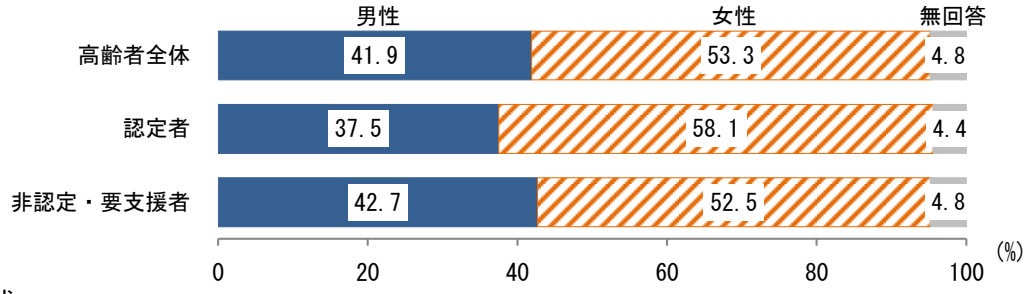
本調査では、認定者と非認定・要支援者から同数を対象者として抽出し調査を実施しています。高齢者全人口に占める認定者と非認定・要支援者の比には大きな差があることから、調査を通じ得られた回答は、認定者の意見が多く反映されていることになります。このため、高齢者全体に占める認定者と非認定・要支援者の比を回答に反映させるため、各々の人口の大きさに合わせウエイト値を求め、各回収件数に対しウエイト値に基づき重み付け集計を行っています。なお、ウエイト値は、40～64歳の第２号被保険者は除いて計算し、第２号被保険者については得られた回答のままで集計を行っています。

調査結果の見方　本報告書で表現する用語の意味・内容は以下のとおりです
認定者：要介護認定を受けている人（40～64歳の第２号被保険者を含む）
非認定・要支援者：65歳以上の方と、要支援認定を受けている方
高齢者全体：調査対象者全体（ただし、40～64歳の第２号被保険者を除く）

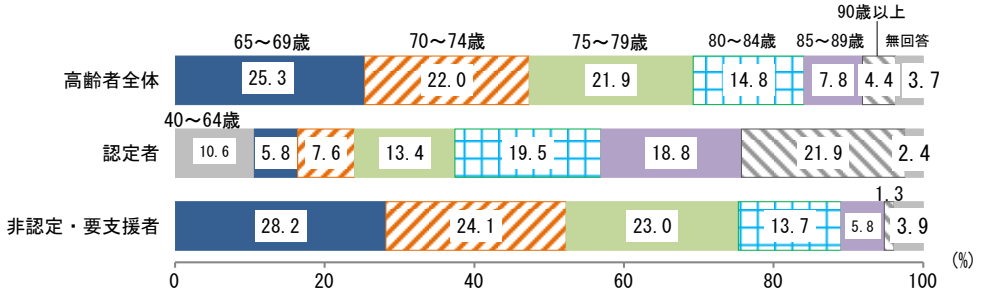
■調査結果の概要 ～回答者の属性～

・**[性別]** 認定者は「男性」37.5%、「女性」58.1%。非認定・要支援者は「男性」42.7%、「女性」52.5%。
・**[年代]** 認定者は75歳以上の割合が73.6%。非認定・要支援者は「65～69歳」（28.2%）が最も多く、次いで「70～74歳」の24.1%。
・**[居住地域]** 認定者では「山田・千里丘地域」（17.7%）、非認定・要支援者では「千里ニュータウン・万博・阪大地域」（16.5%）がそれぞれ最多。
・**[収入]** 認定者、非認定・要支援者とも「年金による収入」が９割近い。

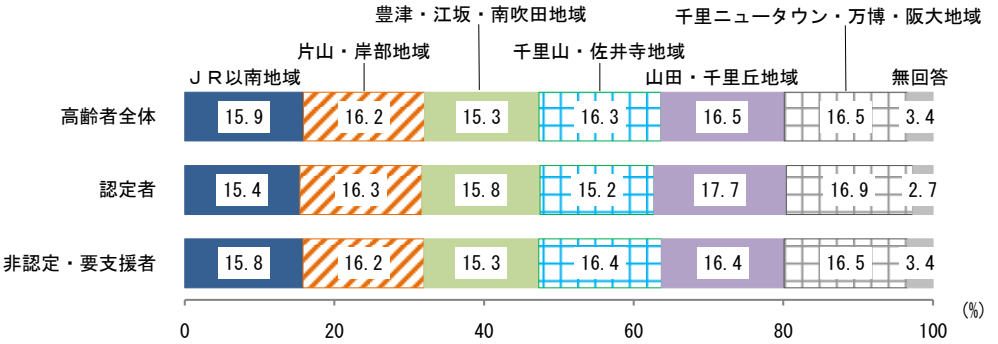
◆性別



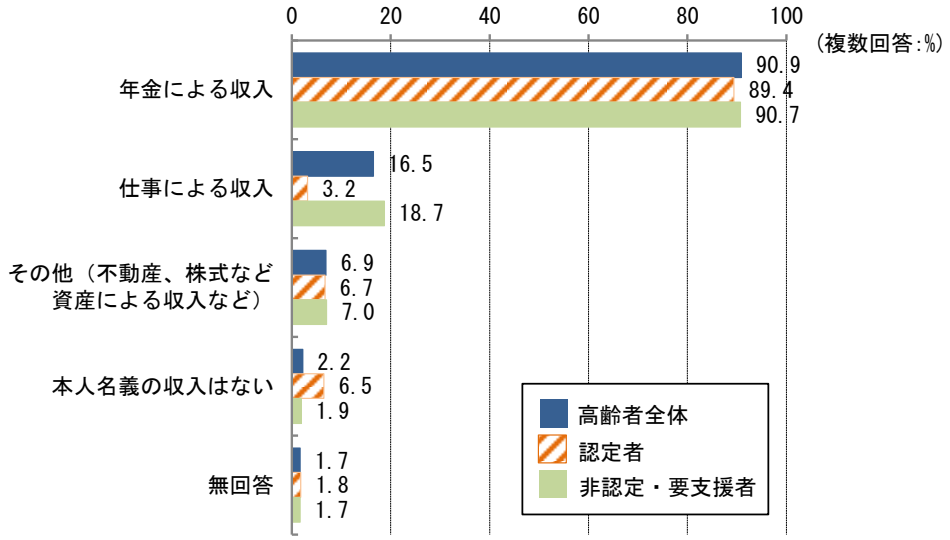
◆年齢構成



◆居住地域



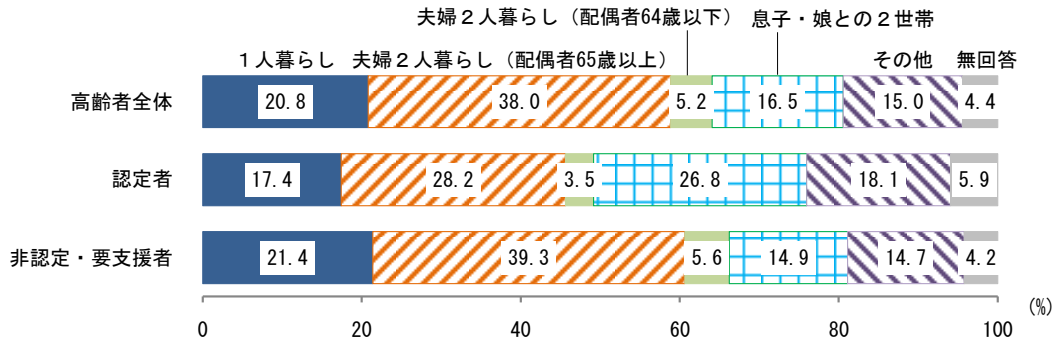
◆収入



■調査結果の概要 ～住まい①～

・**[家族構成]** 認定者、非認定・要支援者とも「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が最多。次いで、認定者は「息子・娘の２世帯」、非認定・要支援者は「１人暮らし」。
・**[住宅の所有形態]** 認定者、非認定・要支援者とも「持家（一戸建て）」が最多。次いで「持家（集合住宅）」が多い。両方を合わせた『持家』の割合は、認定者が66.9%、非認定・要支援者は75.2%。

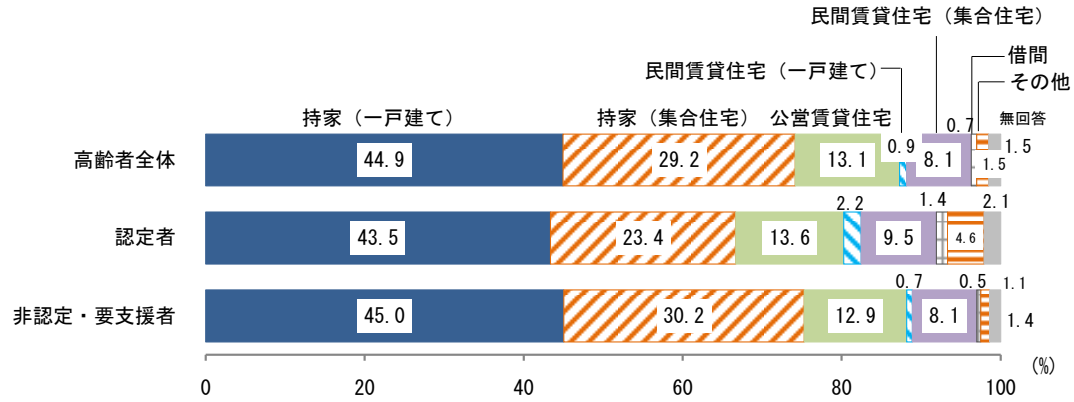
◆家族構成



【参考】１人暮らし高齢者の割合（居住地域別、カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
20.8%	24.2%(3.4)	20.3% (-0.5)	20.6% (-0.2)	23.5% (2.7)	15.6% (-5.2)	23.7% (2.9)

◆住宅の所有形態

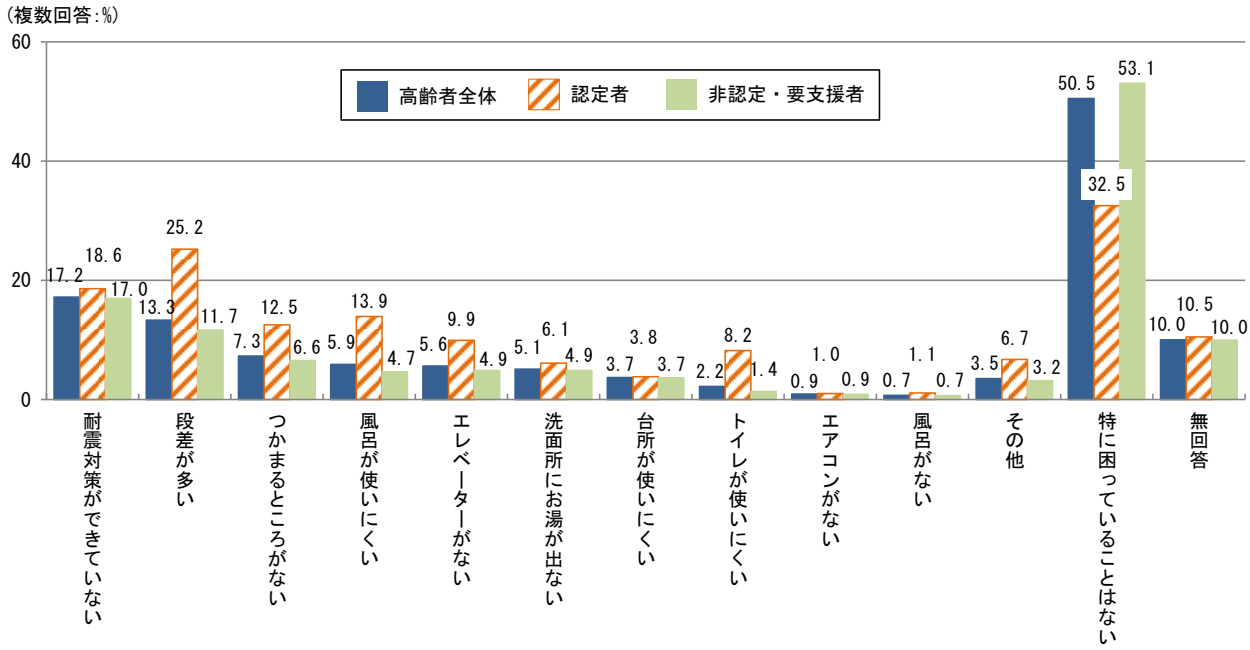


【参考】住宅の所有形態（居住地域別・上位３項目）

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
１位	**持家（一戸建て）**	**持家（一戸建て）**	**持家（一戸建て）**	**持家（一戸建て）**	持家（集合）	公営賃貸
２位	持家（集合）	持家（集合）	持家（集合）	持家（集合）	**持家（一戸建て）**	**持家（一戸建て）**
３位	公営賃貸	民間賃貸	民間賃貸	民間賃貸	民間賃貸	持家（集合）

・**[住まいの困りごと]** 認定者は「段差が多い」（25.2%）が、非認定・要支援者は「耐震対策ができていない」（17.0%）が最多。また、「段差が多い」「つかまるところがない」「風呂が使いにくい」「エレベーターがない」「トイレが使いにくい」等の多くの項目で認定者の割合が高い。
・**[住宅用火災警報器の設置状況]** 認定者、非認定・要支援者とも20%弱が未設置の状況。

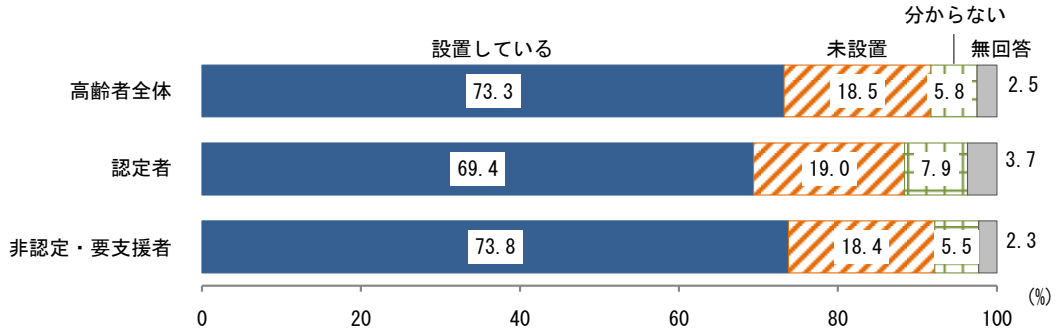
◆住まいの困りごと



【参考】住まいの困りごと（居住地域別・上位３項目）

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
１位	**耐震**	**耐震**	**耐震**	**耐震**	段差	洗面所にお湯
２位	段差	段差	段差	段差	**耐震**	**耐震**
３位	つかまるところ	風呂	つかまるところ	つかまるところ	つかまるところ	エレベーター

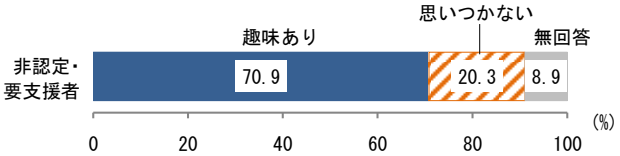
◆住宅用火災警報器の設置



■調査結果の概要 ～趣味や生きがい～

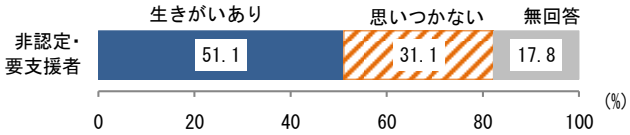
・**[趣味・生きがいの有無]** 「趣味あり」は70.9%、「生きがいあり」は51.1%、趣味も生きがいもある非認定・要支援者は45.4%。
・**[自主活動の参加状況]** 男女とも「趣味関係のグループ」が最多。「町内会・自治会」など、「収入のある仕事」以外の活動の割合は、男性に比べ女性の方が高い傾向。

◆趣味の有無（非認定・要支援者）



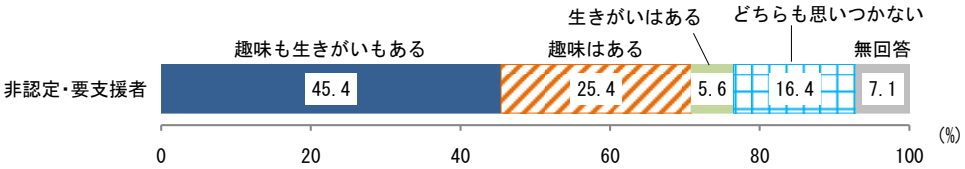
◇趣味ありの主な内容
①手芸(6.4%)
②読書
　歌うこと(6.0%)
④園芸(5.5%)
⑤音楽・映画鑑賞(3.6%)

◆生きがいの有無（非認定・要支援者）

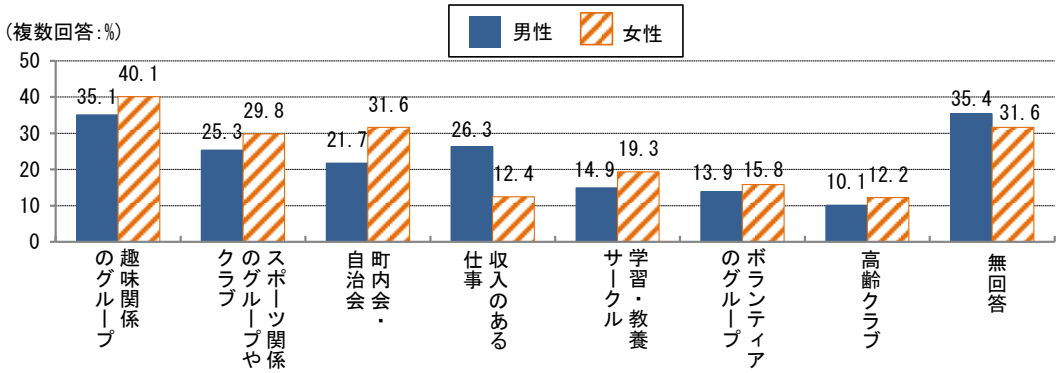


◇生きがいありの主な内容
①孫や子ども、若者などとの交流(15.6%)
②趣味の活動(13.1%)
③スポーツ活動、健康づくり(4.2%)
④友人・知人との交流(3.4%)
⑤仕事、社会奉仕・ボランティア活動(3.1%)

◆趣味も生きがいもある高齢者の割合（非認定・要支援者）



◆自主活動の参加状況（非認定・要支援者）



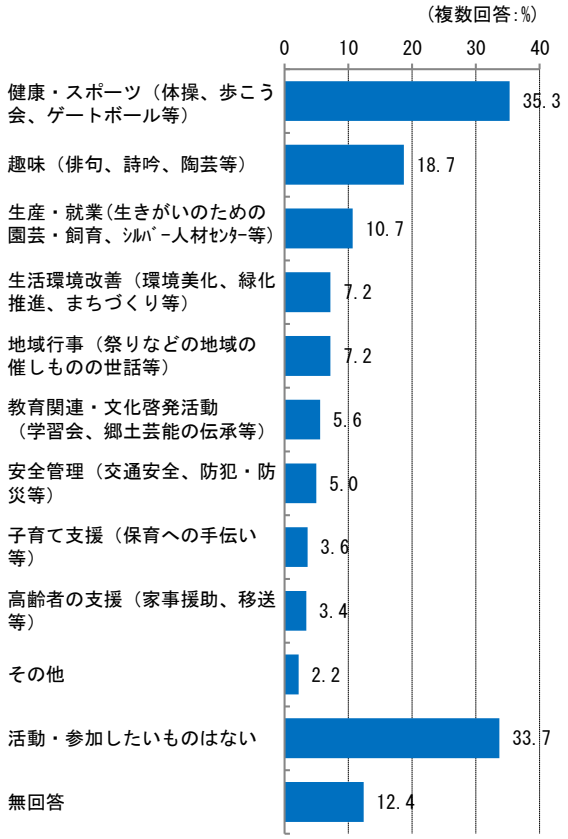
【参考】自主活動の参加状況（居住地域別・上位３項目）

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
１位	自治会	**趣味**	**趣味**	**趣味**	**趣味**	**趣味**
２位	**趣味**	スポーツ	自治会	仕事	スポーツ	スポーツ
３位	スポーツ	自治会	スポーツ	スポーツ	自治会	自治会

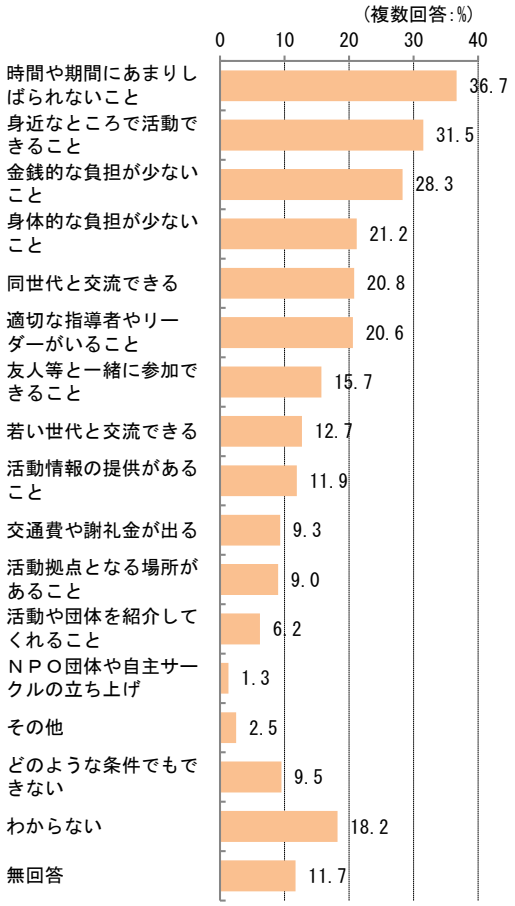
■調査結果の概要 ～地域活動～

・**[参加したい自主活動]** 「健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）」（35.3%）が最多。何らかの活動に参加したい高齢者ほど友人・知人と会う頻度が多い。
・**[地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすくなる条件]** 「時間や期間にあまりしばられないこと」（36.7%）、「身近なところで活動できること」（31.5%）、「金銭的な負担が少ないこと」（28.3%）が上位３条件。
・**[いきいきした地域づくり活動の参加者としての参加意向]** 参加者としての参加意向は、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせて57.3%。企画・運営者としての参加意向は32.3%。

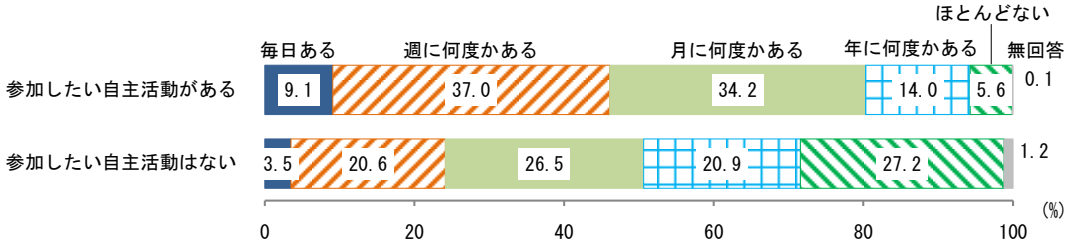
◆参加したい自主活動（非認定・要支援者）



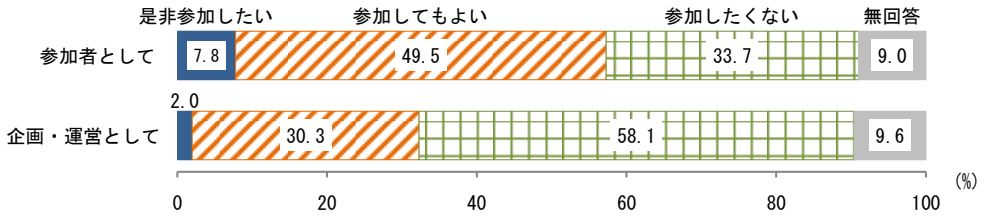
◆地域活動やボランティア活動に参加・活動しやすくなる条件（非認定・要支援者）



◆活動への参加意向と友人・知人と会う頻度（非認定・要支援者）



◆いきいきした地域づくり活動の参加者としての参加意向（非認定・要支援者）

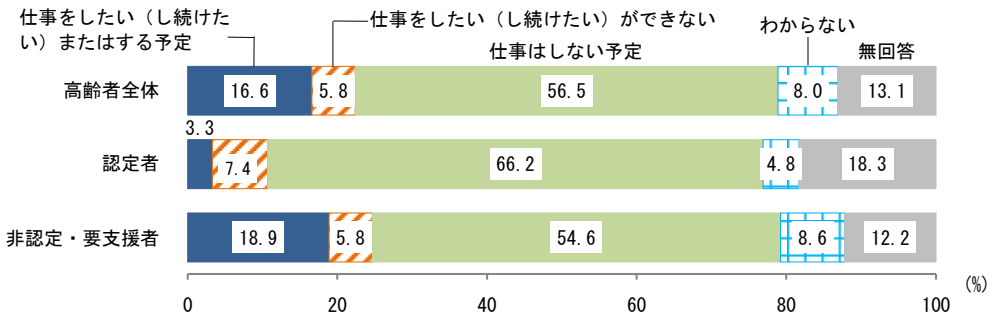


■調査結果の概要 ～働くことや健康づくり～

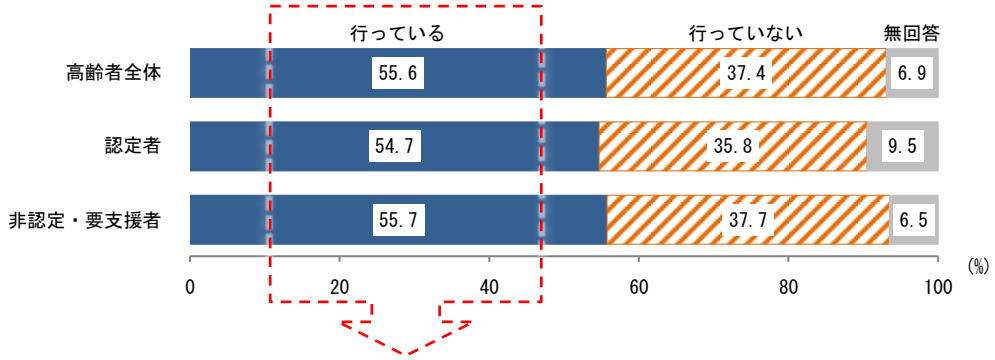
・**[今後の就労意向]** 認定者、非認定・要支援者とも「仕事はしない予定」が過半数。非認定・要支援者は「仕事をしたい（し続けたい）またはする予定」が18.9%。

・**[習慣的に運動をすること]** 週１回以上の運動を行っている割合は、認定者54.7%、非認定・要支援者55.7%。週１回以上習慣的に運動の１週間当たりの運動回数は、認定者、非認定・要支援者とも「３回以上」が最多。また、運動時間は、認定者は「20分未満」、非認定・要支援者は「40分以上」が多く、継続状況については半数以上は「６か月以上」継続している。

◆今後の就労意向

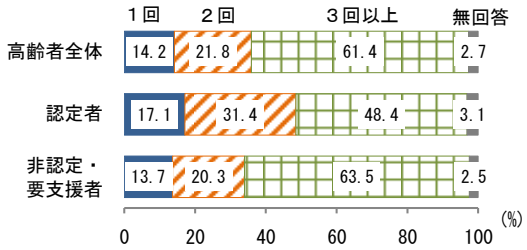


◆習慣的に運動をすること（デイサービスで行っている場合を含む）

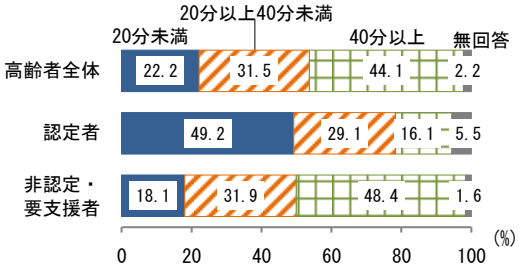


◇習慣的に運動を行っている人の状況

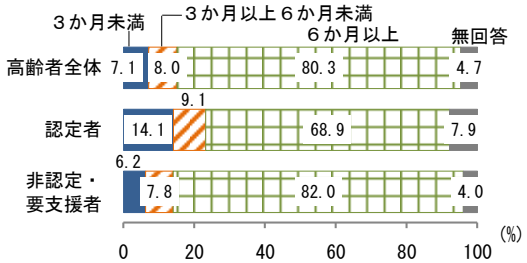
【一週間当たりの運動回数】



【一回当たりの運動時間】



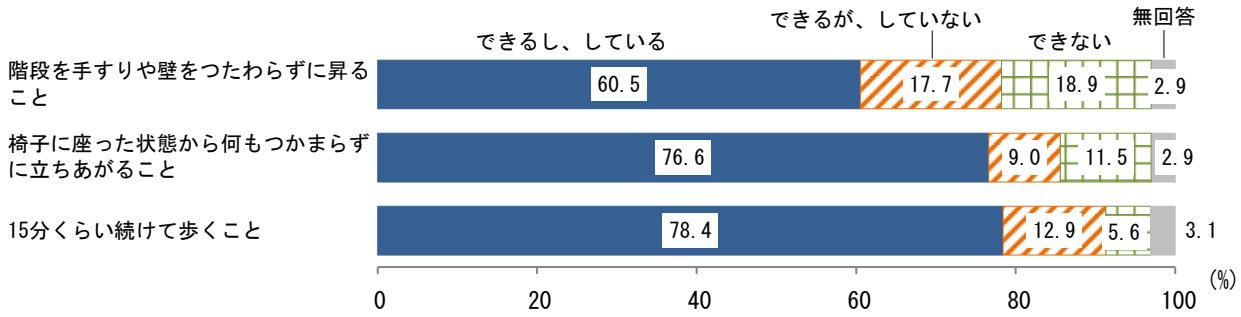
【運動週間の継続状況】



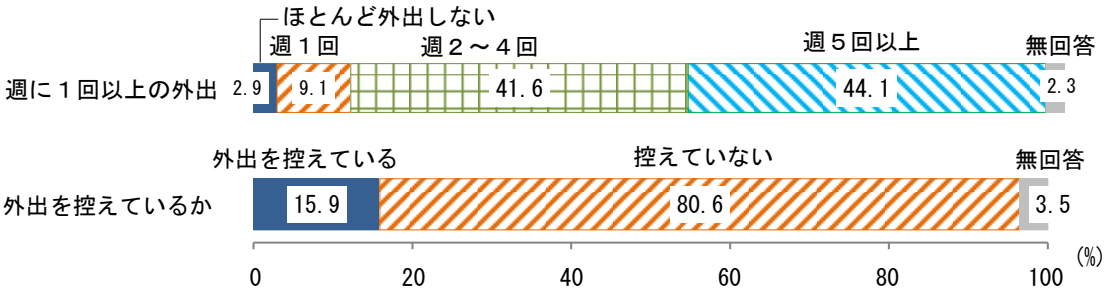
・**[運動機能の状況]**「階段を手すりや壁をつたわらずに昇る」については約５人に１人は「できない」と回答。「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがる」「15分くらい続けて歩く」では、「できるし、している」の割合が高い。

・**[外出の状況]**「週５回以上」（44.1%）が最も多く、週１回以上外出する非認定・要支援者は94.8%。外出を控えていると回答した非認定・要支援者は15.9%で、その理由は「足腰などの痛み」（60.6%）が最多。

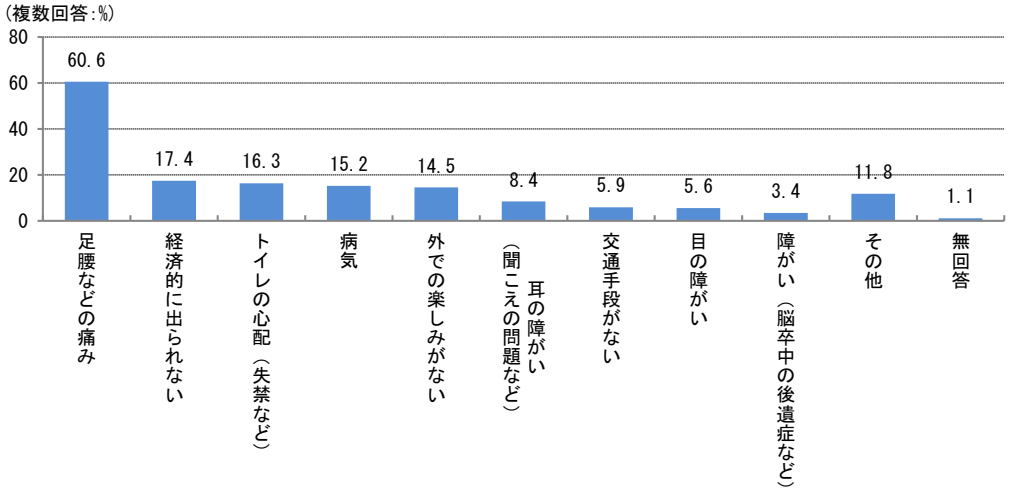
◆運動機能の状況（非認定・要支援者）



◆外出の状況（非認定・要支援者）



◆外出を控えている理由（非認定・要支援者）



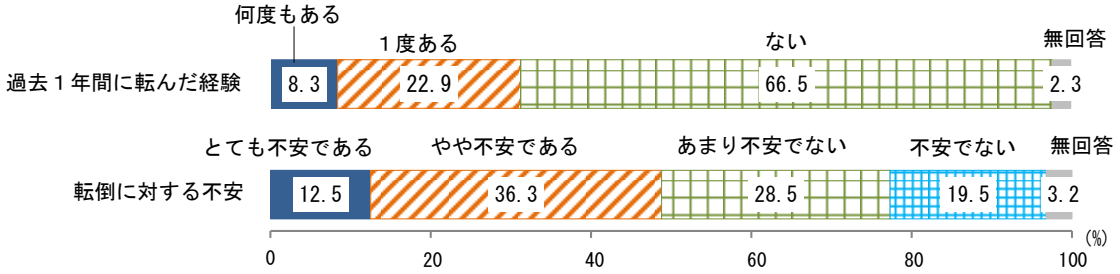
【参考】外出を控えている割合（居住地域別、カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
15.9%	16.8%(0.9)	17.0%(1.1)	17.3%(1.4)	16.1%(0.2)	12.9%(-3.0)	14.5%(-1.4)

■調査結果の概要 ～身体機能の低下予防に向けた取組み～

・**[転倒の経験や転倒に対する不安]** 非認定・要支援者で過去１年間に転倒経験が１度以上ある高齢者は31.2%。転倒に対し不安がある高齢者は48.8%と半数近く。
・**[介護・介助が必要になった原因と介護予防のために心がけていること]** 非認定・要支援者が介護・介助が必要になった原因の上位は「高齢による衰弱」(22.7%)と「骨折・転倒」(21.6%)。健康増進・介護予防のために心がけていることは「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」(69.5%)が最多。
・**[市が実施する介護予防事業の認知（参加）状況]** 「知らない」が56.1%。「参加したことがある」と「知っているが、参加したことはない」を合わせた割合は38.6%で、うち「参加したことがある」は8.7%。

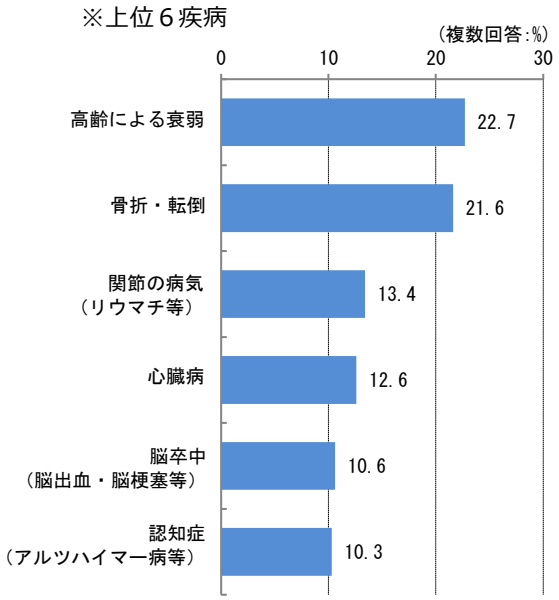
◆転倒の経験や転倒に対する不安（非認定・要支援者）



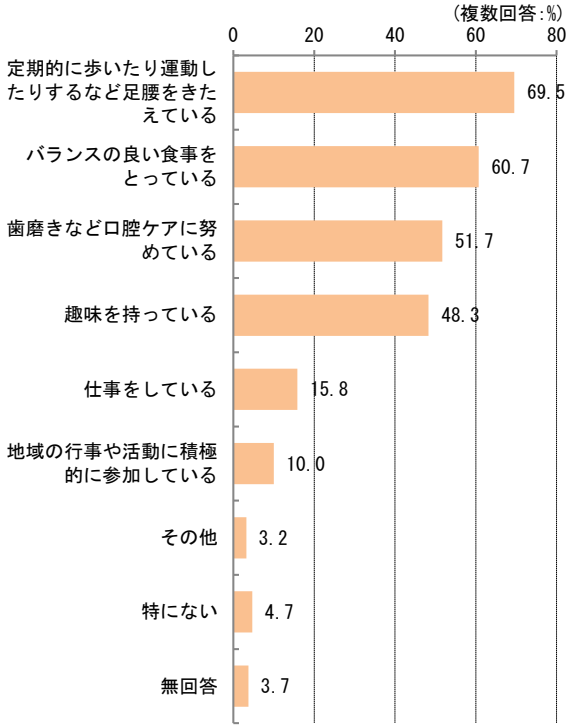
◆介護・介助が必要な非認定・要支援者で、その原因と介護予防のために心がけていること

【介護・介助が必要になった原因】

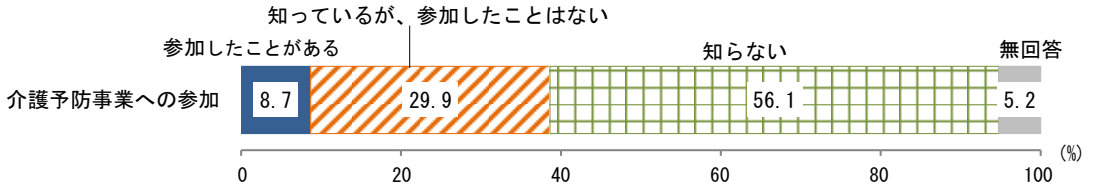
※上位６疾病



【介護予防のために心がけていること】



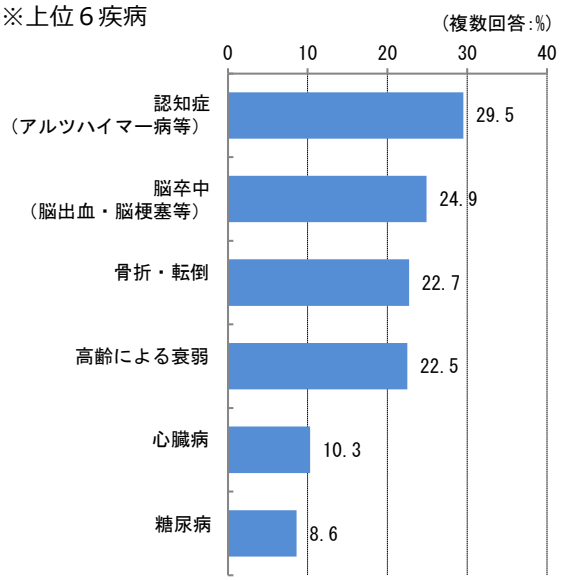
◆市が実施する介護予防事業の認知（参加）状況（非認定・要支援者）



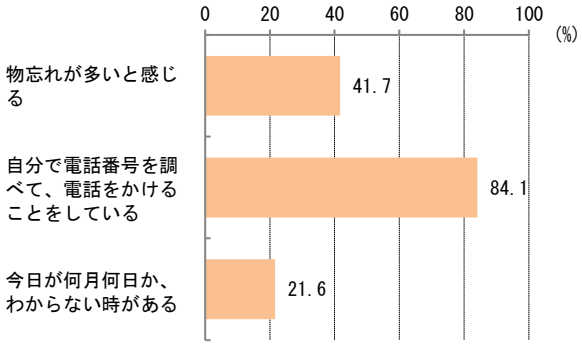
・**[介護が必要になった原因]** 認定者の介護が必要になった原因は、「認知症（アルツハイマー病等）」（29.5%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（24.9%）、「骨折・転倒」（22.7%）が上位。
・**[物忘れの状況]** 非認定・要支援者では「物忘れが多いと感じる」が41.7%、「今日が何月何日か、わからない時がある」が21.6%。
・**[認知症サポーターの認知状況]** 認定者、非認定・要支援者とも「知らない」が６割台。「知っている」割合は、認定者が9.3%、非認定・要支援者が7.8%。

◆介護が必要になった原因（認定者）

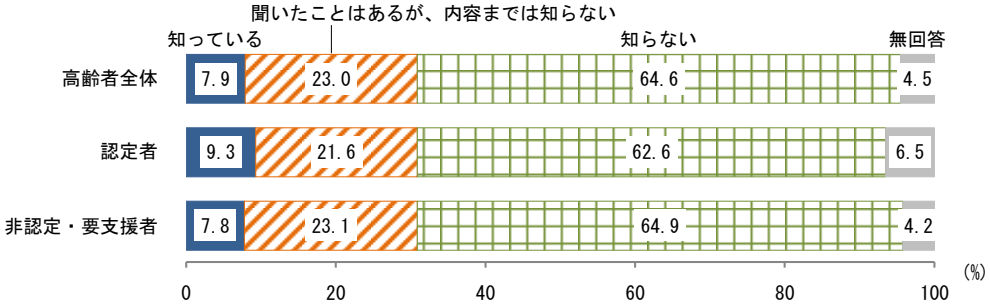
※上位６疾病



◆物忘れの状況（非認定・要支援者）



◆認知症サポーターの認知状況



【参考】認知症サポーターの認知状況（居住地域別）
『知っている（「知っている」＋「聞いたことはあるが、内容までは知らない」）』
（カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
30.9%	27.4% (-3.5)	29.6% (-1.3)	36.6% (5.7)	35.4% (4.5)	30.3% (-0.6)	27.0% (-3.9)

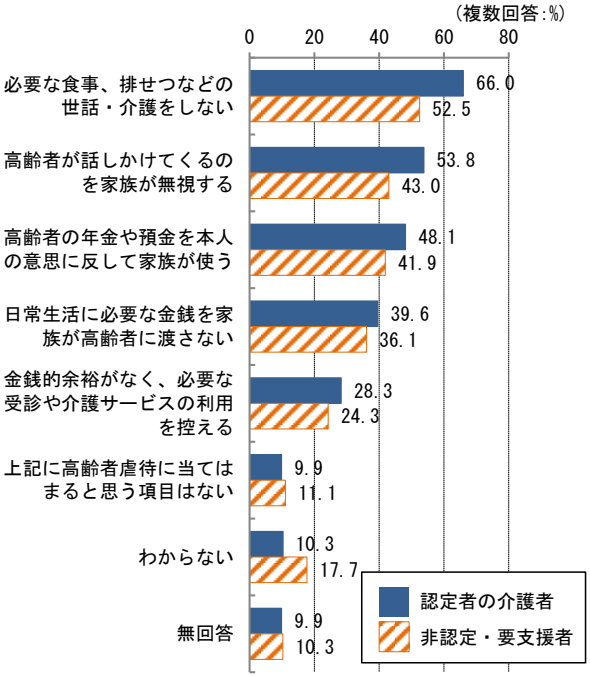
■調査結果の概要 ～高齢者虐待・権利擁護～

・**[高齢者虐待に当てはまると思う項目]** すべての選択肢が高齢者虐待に当てはまる項目だが、「高齢者虐待に当てはまる項目はない」は、認定者の介護者が9.9%、非認定・要支援者が11.1%。

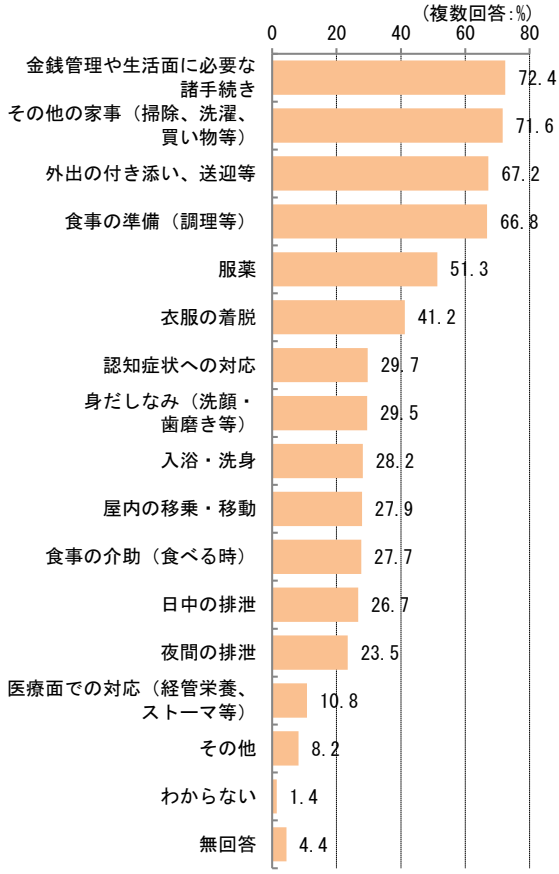
・**[主な介護者が行っている介護等]** 「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（72.4%）と「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（71.6%）、「外出の付き添い、送迎等」（67.2%）、「食事の準備（調理等）」（66.8%）が上位。

・**[成年後見制度の認知状況]** 認定者、非認定・要支援者とも「知らない」が最多。「知っている」割合は、認定者が24.6%、非認定・要支援者が27.5%。

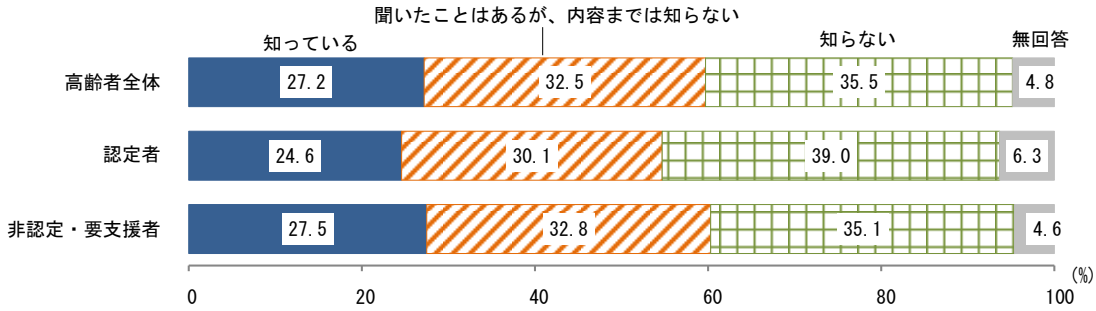
◆高齢者虐待に当てはまると思う項目
（認定者の介護者、非認定・要支援者）



◆主な介護者が行っている介護等
（認定者の介護者）



◆成年後見制度の認知状況



■調査結果の概要 ～安心・安全なまちづくり～

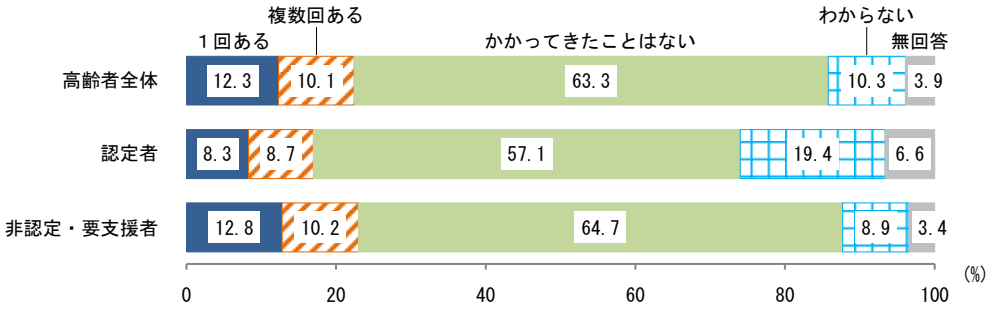
・**[災害に備えた対策]** 認定者、非認定・要支援者とも「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が最多。
・**[特殊詐欺だと思われる電話がかかってきた経験]** 「１回ある」と「複数回ある」を合わせた『かかってきたことがある』割合は、認定者が17.0%、非認定・要支援者が23.0%。
・**[特殊詐欺被害を防ぐために必要なこと]** 認定者は「日頃から、家族との連絡を頻繁にとる」（43.1%）、非認定・要支援者は「番号通知機能等を活用し知らない相手の電話に極力出ないようにする」（50.7%）が最多。

◆災害に備えた対策（認定者、非認定・要支援者）　※上位10項目

（複数回答：%）

	高齢者全体	認定者	非認定・要支援者
第１位	携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している 54.9	携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している 39.8	携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している 57.0
第２位	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている 39.6	食料や飲料水を準備している 29.2	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている 41.8
第３位	食料や飲料水を準備している 38.2	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている 25.2	食料や飲料水を準備している 39.5
第４位	自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険に加入している 33.2	自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険に加入している 23.6	自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険に加入している 34.6
第５位	日ごろから近所づきあいを大切にしている 26.7	日ごろから近所づきあいを大切にしている 21.0	日ごろから近所づきあいを大切にしている 27.5
第６位	いつも風呂の水をためおきしている 25.8	いつも風呂の水をためおきしている 19.5	いつも風呂の水をためおきしている 26.8
第７位	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している 23.5	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している 17.4	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している 24.3
第８位	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している 20.5	耐震性のある家に住んでいる 17.3	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している 21.3
第９位	消火器や水をはったバケツを準備している 16.6	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している 14.6	消火器や水をはったバケツを準備している 17.1
第10位	耐震性のある家に住んでいる 15.5	消火器や水をはったバケツを準備している 13.0	耐震性のある家に住んでいる 15.2
	特に何もしていない 11.1	特に何もしていない 15.9	特に何もしていない 10.5

◆特殊詐欺だと思われる電話がかかってきた経験（認定者、非認定・要支援者）



◆特殊詐欺被害を防ぐために必要なこと（認定者、非認定・要支援者）　※上位５項目

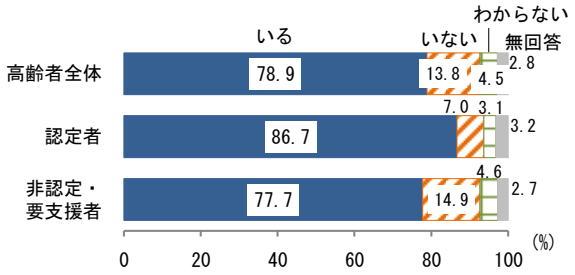
（複数回答：%）

	高齢者全体	認定者	非認定・要支援者
第１位	番号通知機能等を活用し知らない相手の電話に極力出ないようにする 48.9	日頃から、家族との連絡を頻繁にとる 43.1	番号通知機能等を活用し知らない相手の電話に極力出ないようにする 50.7
第２位	日頃から、家族との連絡を頻繁にとる 46.2	番号通知機能等を活用し知らない相手の電話に極力出ないようにする 37.0	日頃から、家族との連絡を頻繁にとる 46.9
第３位	詐欺の手口について知っておく 38.9	詐欺の手口について知っておく 25.2	詐欺の手口について知っておく 41.1
第４位	市、消費生活センター等行政機関の相談窓口の連絡先を知っておく 18.3	不審に思った際の相談先を決めておく 15.9	市、消費生活センター等行政機関の相談窓口の連絡先を知っておく 19.1
第５位	友人や知人の連絡先を把握しておく 15.8	市、消費生活センター等行政機関の相談窓口の連絡先を知っておく 14.2	友人や知人の連絡先を把握しておく 16.3

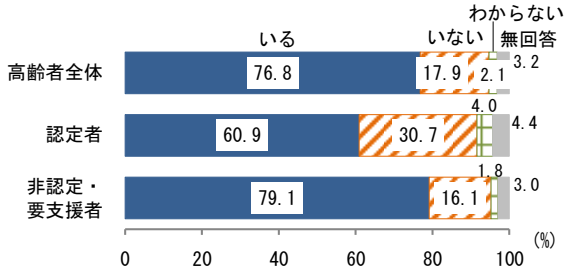
■調査結果の概要 ～医療とのかかわり～

・**[かかりつけ医の有無]** 認定者、非認定・要支援者とも「いる」が７～８割。
・**[かかりつけ歯科医の有無]** 「いる」割合は、認定者60.9%、非認定・要支援者79.1%。
・**[かかりつけ薬局の有無]** 「決めている」は、認定者74.0%、非認定・要支援者61.7%。
・**[訪問診療の利用状況]** 認定者で訪問診療を「利用している」割合が17.6%に対し「利用していない」は70.9%。

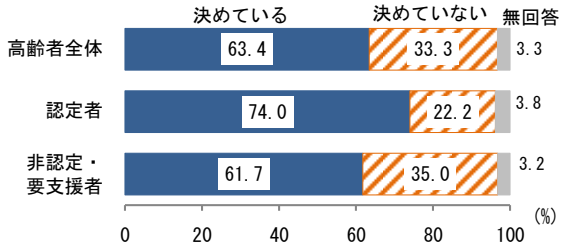
◆かかりつけ医の有無



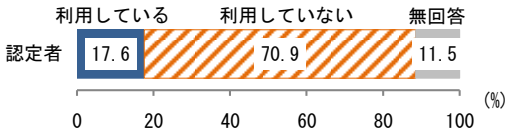
◆かかりつけ歯科医の有無



◆かかりつけ薬局の有無



◆訪問診療の利用状況（認定者）



【参考】かかりつけ医・かかりつけ歯科医がいる、かかりつけ薬局を決めている（居住地域別）

かかりつけ医がいる割合（カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
78.9%	81.9%(3.0)	81.1%(2.2)	70.0%(-8.9)	82.3%(3.4)	80.8%(1.9)	78.5%(-0.4)

かかりつけ歯科医がいる割合（カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
76.8%	78.8%(2.0)	76.8%(0.0)	68.4%(-8.4)	81.7%(4.9)	74.9%(-1.9)	78.0%(1.2)

かかりつけ薬局を決めている割合（カッコ内は高齢者全体との差）

高齢者全体	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
63.4%	62.5%(-0.9)	68.4%(5.0)	62.5%(-0.9)	66.3%(2.9)	56.9%(-6.5)	65.7%(2.3)

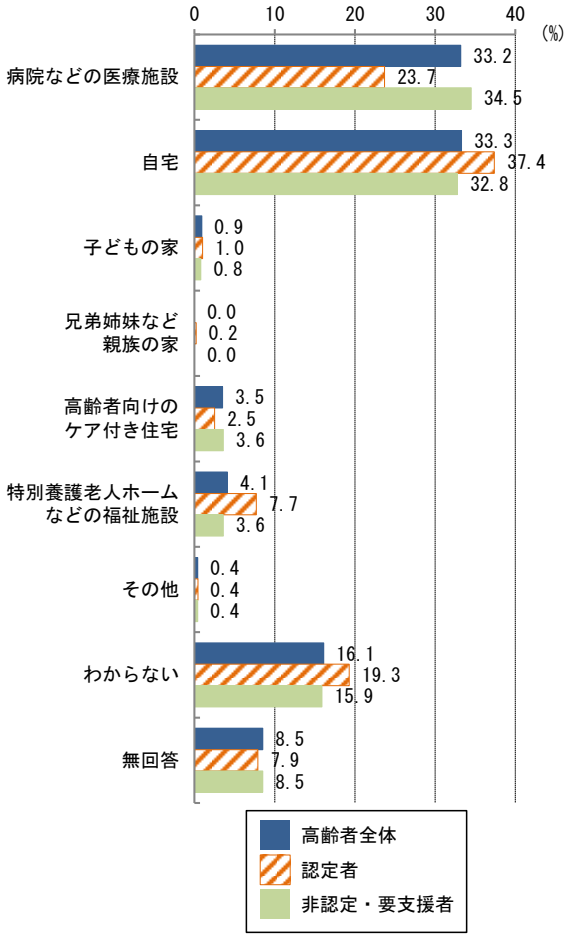
■調査結果の概要 ～在宅での療養生活についての考え①～

・**[最期を迎えたい（迎えさせたい）場所]** 自分自身が最期を迎えたい場所は、認定者は「自宅」（37.4%）が、非認定・要支援者は「病院などの医療施設」（34.5%）それぞれ最多。一方、家族に最期を迎えさせたい場所は、認定者、非認定・要支援者とも「自宅」が最多。

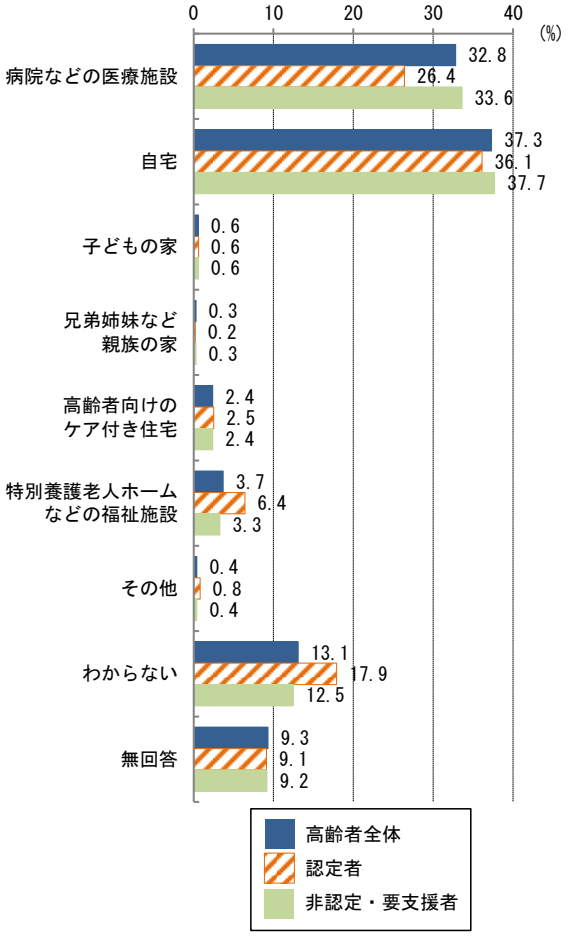
・**[受けたい医療・受けたくない医療について家族との話し合いの状況]** 認定者、非認定・要支援者とも「全く話し合ったことがない」が45%台、「一応話し合ったことがある」は40%強。

◆治る見込みのない病気になった時に最期を迎えたい（迎えさせたい）場所

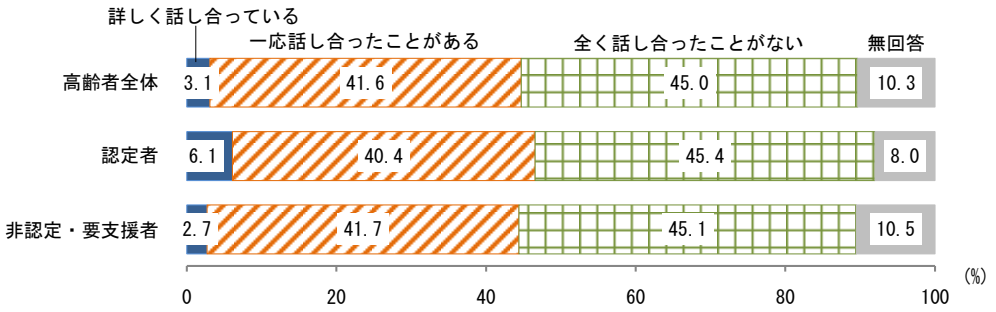
【自分自身の場合】



【自分の家族の場合】



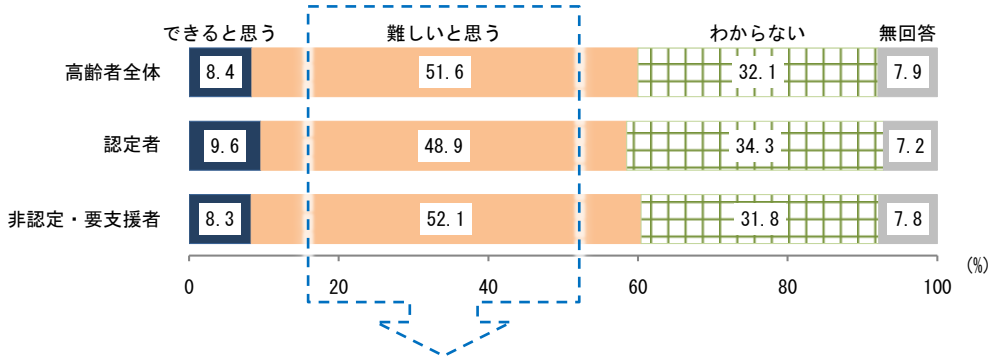
◆自身の死が近づいた場合に受けたい医療・受けたくない医療について家族との話し合いの状況



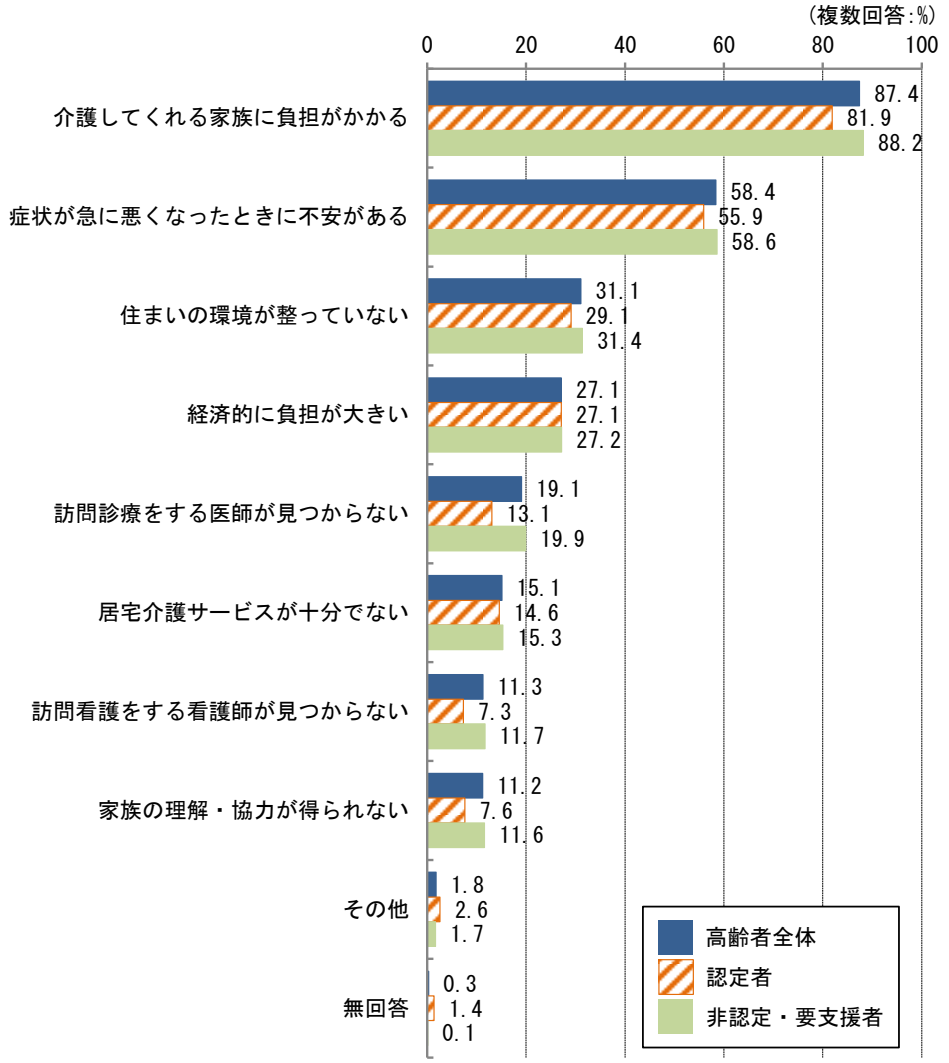
■調査結果の概要 ～在宅での療養生活についての考え②～

・**[自宅で療養しながら最期まで過ごすことの実現可能性]** 認定者、非認定・要支援者とも「難しいと思う」が５割前後。一方、「できると思う」は、認定者9.6%、非認定・要支援者8.3%。
・**[自宅で療養しながら最期まで過ごすことの実現が困難な理由]** 認定者、非認定・要支援者とも「介護してくれる家族に負担がかかる」「症状が急に悪くなったときに不安がある」「住まいの環境が整っていない」が上位。

◆自宅で療養しながら最期まで過ごすことの実現可能性



◇自宅で療養しながら最期まで過ごすことの実現が困難な理由

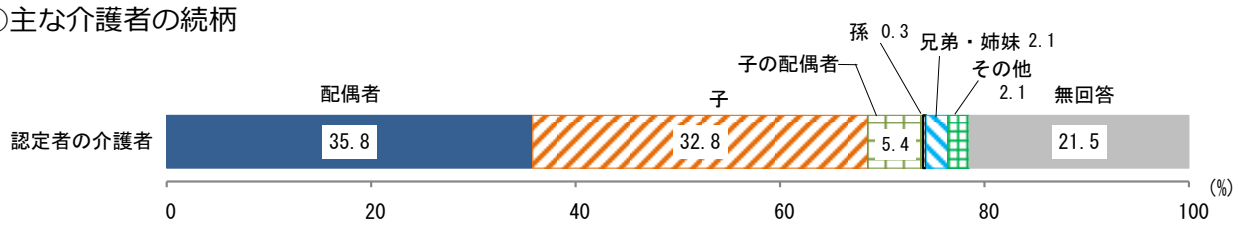


■調査結果の概要 ～家族介護者の状況①～

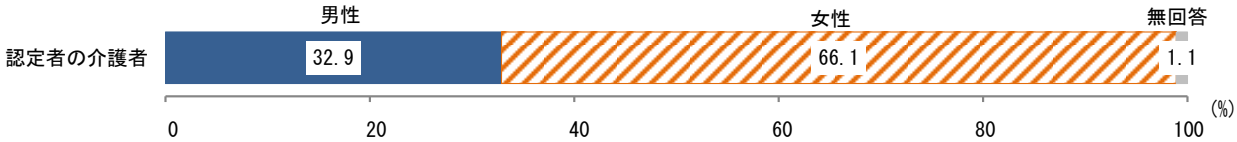
・**[主な介護者の続柄]** 「配偶者」が35.8%で最多。次いで「子」(32.8%)、「子の配偶者」(5.4%)の順。
・**[主な介護者の性別]** 「男性」32.9%に対し「女性」66.1%。
・**[主な介護者の年齢]** 「60代」が26.8%で最多。次いで「70代」が25.8%で、60歳以上の介護者が68.6%。
・**[主な介護者の勤務形態]** 「働いていない」が54.3%。「フルタイムで働いている」(18.1%)と「パートタイムで働いている」(15.0%)を合わせた『働いている』割合は33.1%。
・**[介護を主な理由として仕事を辞めた家族や親族の状況]** 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が51.2%。「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は10.9%。

◆介護者の属性(認定者)

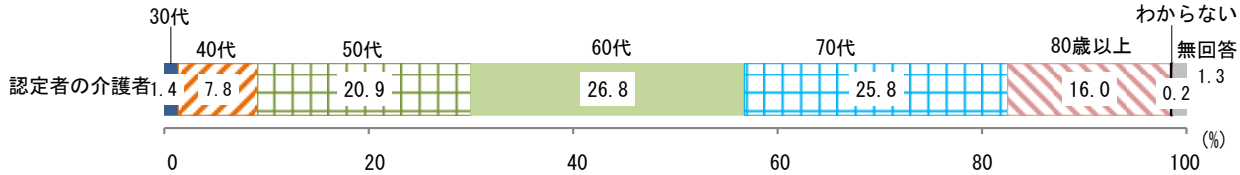
①主な介護者の続柄



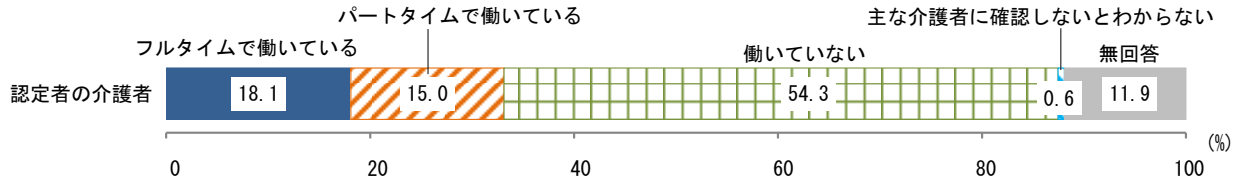
②主な介護者の性別



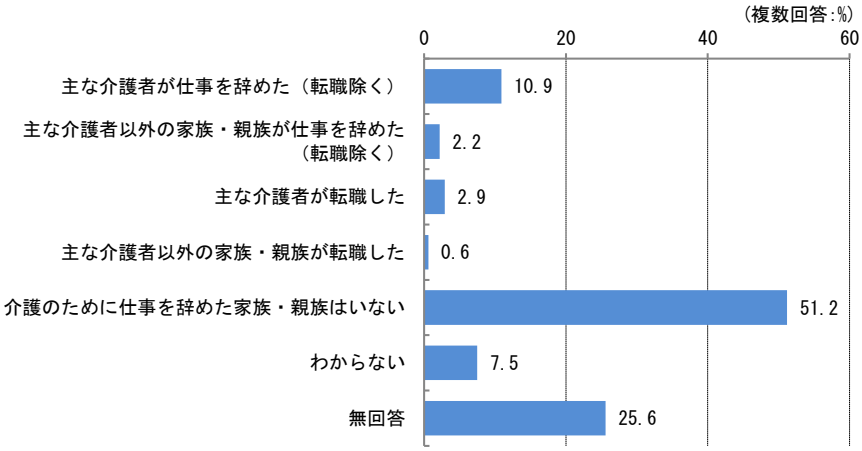
③主な介護者の年齢



④主な介護者の勤務形態



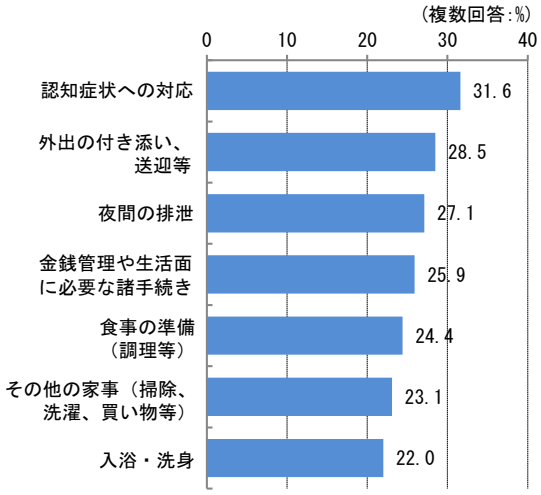
◆介護を主な理由として仕事を辞めた家族や親族の状況(認定者の介護者)



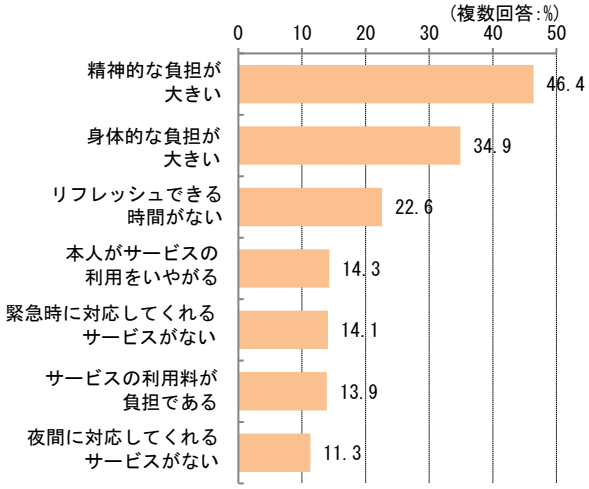
■調査結果の概要 ～家族介護者の状況②～

- **[主な介護者が不安に感じる介護等]** 「認知症状への対応」(31.6%)、「外出の付き添い、送迎等」(28.5%)、「夜間の排泄」(27.1%) が介護不安の上位3項目。
- **[主な介護者が介護を行ううえで困っていること]** 「精神的な負担が大きい」(46.4%)、「身体的な負担が大きい」(34.9%)、「リフレッシュできる時間がない」(22.6%) が介護を行ううえでの困りごと上位３項目。
- **[主な介護者が介護に困ったときの相談先]** 「ケアマネジャー」(67.1%) が最多。以下「医師・歯科医師・看護師」(25.9%)、「そのような人はいない」(12.7%)、「地域包括支援センター・市役所」(6.8%) の順。
- **[通院にかかる交通費の負担感]** 「通院費用の負担を感じている」割合は要介護１・２の介護者で高い。
- **[施設等への入所・入居の検討状況]** 「すでに入所・入居申し込みをしている」が22.1%、「入所・入居を検討している」は15.0%。

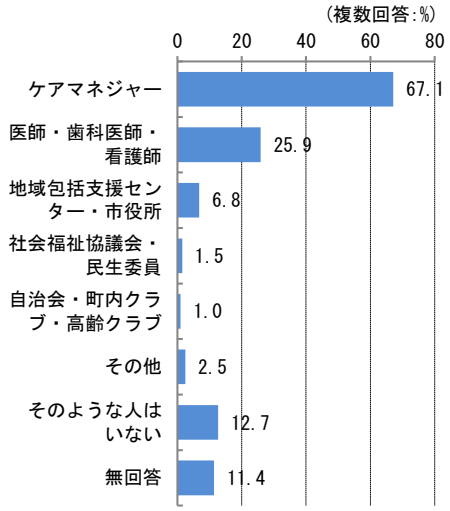
◆主な介護者が不安に感じる介護等
（認定者の介護者） ※上位７項目



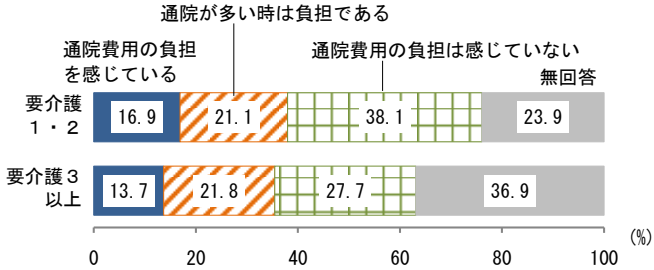
◆主な介護者が介護を行ううえで困っていること
（認定者の介護者） ※上位７項目



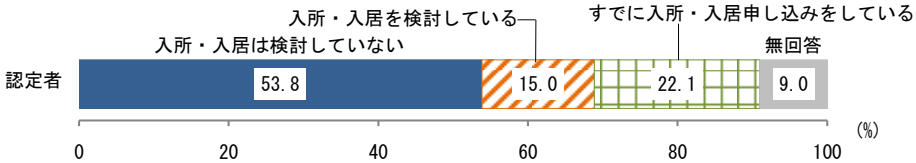
◆主な介護者が介護に困ったときの相談先
（認定者の介護者）



◆通院にかかる交通費の負担感
（認定者の介護者）



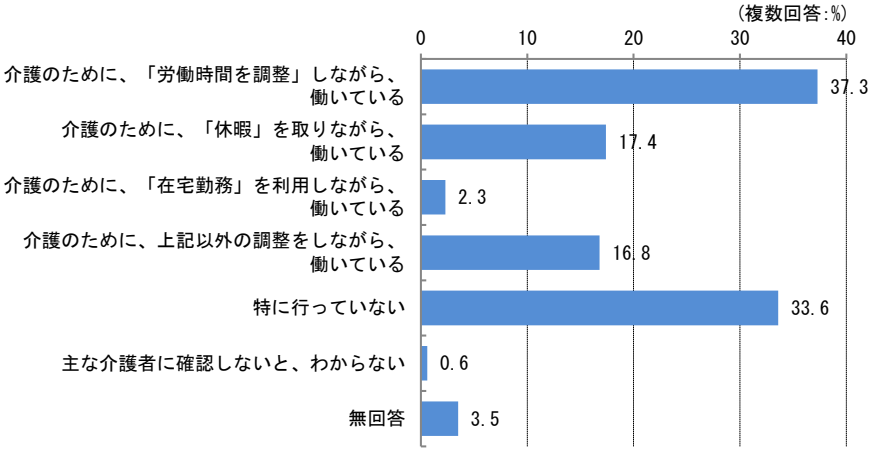
◆施設等への入所・入居の検討状況（認定者の介護者）



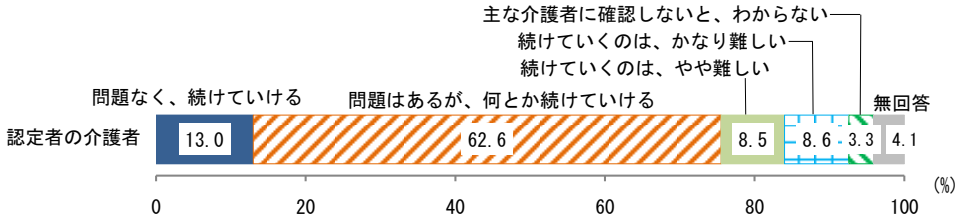
■調査結果の概要 ～家族介護者の状況③～

・**[介護をするに当たっての働き方の調整等の状況]** 「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」（37.3%）が最多。
・**[働きながらの介護の継続意向]** 就労中の主な介護者の働きながらの介護の継続意向は、「問題はあるが、何とか続けていける」（62.6%）と「問題なく、続けていける」（13.0%）を合わせた『続けていける』が75.6%。一方、「続けていくのは、やや難しい」は8.5%、「続けていくのは、かなり難しい」は8.6%。
・**[仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援]** 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（28.0%）、「制度を利用しやすい職場づくり」（27.7%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（26.2%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（24.5%）などが上位。

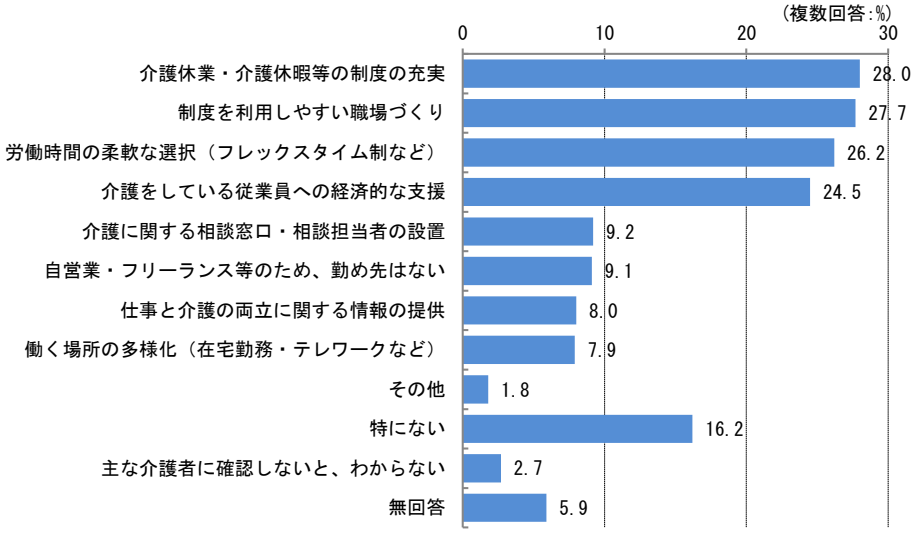
◆介護をするに当たっての働き方の調整等の状況（認定者の介護者）



◆働きながらの介護の継続意向（認定者の介護者）



◆仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援（認定者の介護者）

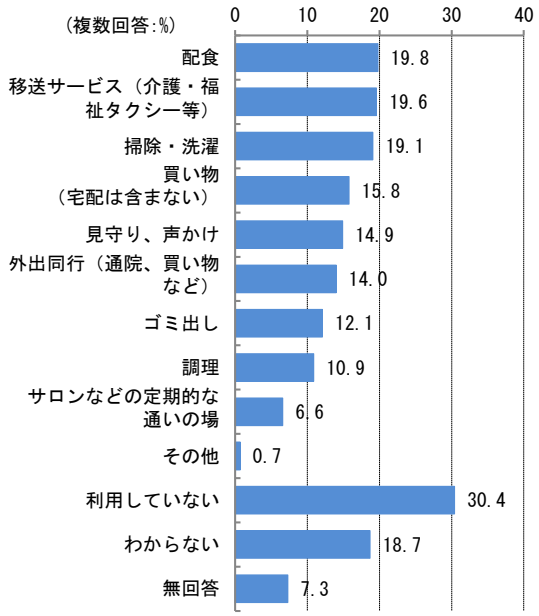


■調査結果の概要 ～在宅生活を支援するサービスに対するニーズ①～

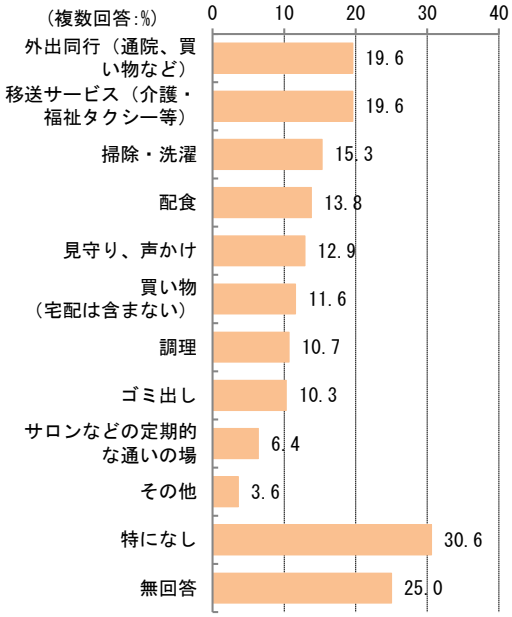
・**[今後の在宅生活の継続に必要な（利用したい）支援・サービス]** ニーズが高い上位のサービスは、非認定・要支援者では「配食」（19.8%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（19.6%）、「掃除・洗濯」（19.1%）、認定者では「外出同行（通院、買い物など）」（19.6%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（19.6%）。

◆今後の在宅生活の継続に必要な（利用したい）支援・サービス

【非認定・要支援者】



【認定者】



【参考】今後の在宅生活の継続に必要な支援・サービス（居住地域別・上位３項目）

非認定・要支援者

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
１位	掃除・洗濯	買い物	**配食**	移送	移送	**配食**
２位	**配食**	掃除・洗濯	移送	**配食**	**配食**	掃除・洗濯
３位	移送	移送	掃除・洗濯	掃除・洗濯	掃除・洗濯	移送

認定者

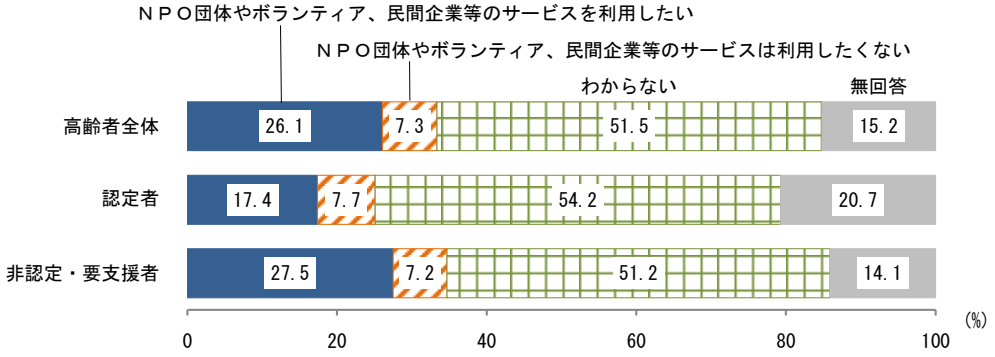
	JR以南	片山・岸部		豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
１位	移送	配食	移送	移送	移送	**外出同行**	**外出同行**
２位	**外出同行**	**外出同行**		**外出同行**	**外出同行**	移送	掃除・洗濯
３位	掃除・洗濯	掃除・洗濯		見守り、声かけ	掃除・洗濯	見守り、声かけ	移送

■調査結果の概要 ～在宅生活を支援するサービスに対するニーズ②～

・**[吹田市高齢者安心・自信サポート事業におけるＮＰＯ団体など民間企業等によるサービス提供の利用意向]** 認定者、非認定・要支援者とも「わからない」が５割台。「ＮＰＯ団体やボランティア、民間企業等のサービスを利用したい」割合は、認定者17.4%、非認定・要支援者27.5%で、非認定・要支援者の方がニーズが高い。

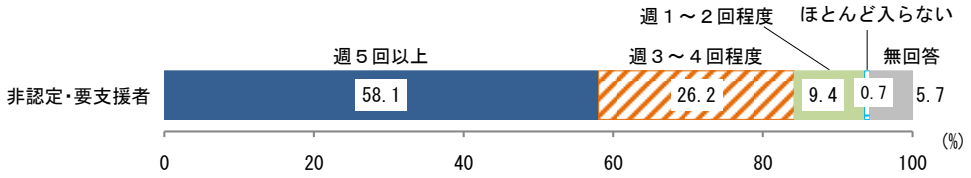
・**[入浴の状況]** 「週５回以上」が58.1%で最も多く、次いで「週３～４回程度」が26.2%。お風呂に週５回以上入らない理由は、「毎日入浴する必要がない、汚れを感じない」が47.9%で最多。

◆吹田市高齢者安心・自信サポート事業におけるＮＰＯ団体など民間企業等によるサービス提供の利用意向（認定者、非認定・要支援者）



◆入浴の状況（非認定・要支援者）

【週当たりの入浴回数】



【お風呂に週５回以上入らない理由】　※上位６項目

（複数回答：%）

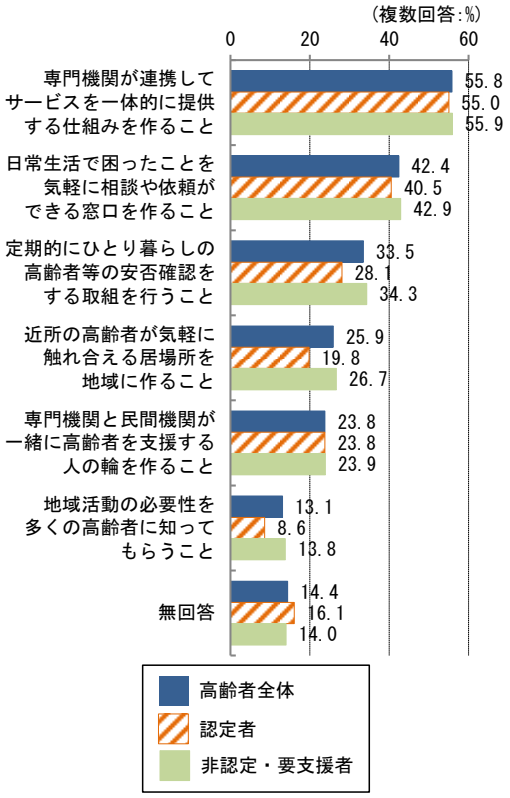
	非認定・要支援者	
第１位	毎日入浴する必要がない、汚れを感じない	47.9
第２位	入浴するのが面倒くさい	19.2
第３位	費用（水道代、銭湯代など）を節約するために利用を抑えている	16.8
第４位	入浴後に疲れが出る、入浴が身体に負担となる	6.8
第５位	浴室・浴槽への出入りが不安	3.6
第６位	入浴中に見守りをしてくれる人がいないと不安	3.5

■調査結果の概要 ～市の高齢者保健福祉施策～

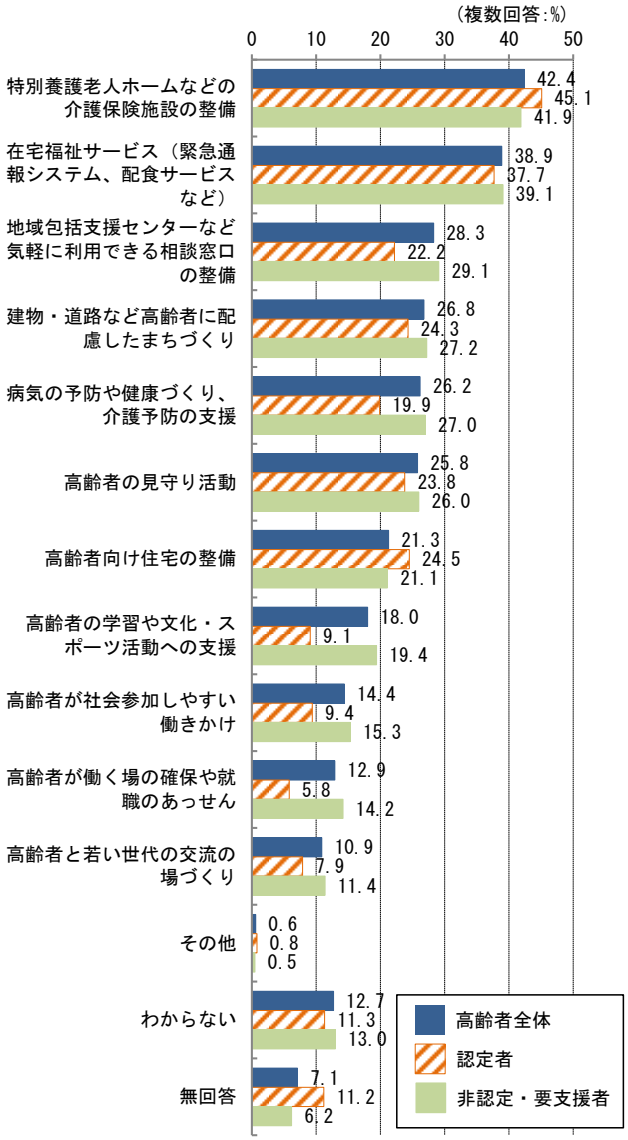
・**[地域包括ケアシステムを作るために大切なこと]** 認定者、非認定・要支援者とも「専門機関が連携してサービスを一体的に提供する仕組みを作ること」と「日常生活で困ったことを気軽に相談や依頼ができる窓口を作ること」が上位。

・**[高齢者保健福祉について充実を望む施策]** 認定者、非認定・要支援者とも「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」と「在宅福祉サービス（緊急通報システム、配食サービスなど）」が上位。

◆地域包括ケアシステムを作るために大切なこと



◆高齢者保健福祉について充実を望む施策



■調査結果からうかがえる課題①

本調査の結果は、別冊の調査報告書本編においてより詳細な分析を行っています。その分析結果から、地域包括ケアシステムの構築に向けて第７期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において検討すべき課題を分析し、とりまとめた結果は次のとおりです。

1　安心して住み続けられる住環境の充実

・災害や火災等が発生した場合を想定した住まいの安全対策を図るため、住まいの耐震対策などの補助制度の周知などを検討
・住み慣れた家での暮らしを継続できるよう、住まいのバリアフリー化の促進
・住宅用火災警報器の設置の促進と、既に設置している人に対する作動確認の周知
・高齢者の１人暮らし世帯や認知症高齢者などの増加を踏まえ、特別養護老人ホーム等、ニーズや利用見込を勘案した適正な施設の整備方針の検討
・防災・減災に対する更なる意識啓発
・認定者などの要援護者への災害時対策や福祉避難所の周知
・特殊詐欺被害に関する啓発

2　生きがいづくり・健康づくりの推進

・高齢者が生きがいをもって取り組める活動と、それを促進するための仕掛けづくり
・地域の担い手となり健康づくり・生きがいづくりを進めていくための仕組みづくり
・シルバー人材センターやＪＯＢナビすいたと連携した高齢者の就労支援
・高齢者の多様なニーズに応じた運動に関する情報提供、身近な場所での運動機会の提供支援
・高齢者の地域活動の促進や地域との結びつきを強める取組の推進による高齢者の活力向上
・時間と期間の束縛がない、身近な場所で活動ができる、身体的・金銭的負担がない等、地域活動への参加を促進するための条件整備の検討

3　新しい介護予防・日常生活支援総合事業の推進（生活支援・介護予防）

・「吹田市高齢者安心・自信サポート事業」（総合事業）の実施に向けた多様な担い手による多様な生活支援サービスの展開の検討と、サービスの担い手の質の確保などの市民が安心して事業を利用できる条件整備
・今後の生活に必要な生活支援や外出同行、移送サービスなどの移動支援の検討
・自宅にお風呂がなく、自宅周辺にある銭湯などの入浴施設が閉鎖するなどして入浴できなくなるという課題を踏まえ、自宅以外での入浴場所として、スポーツジムなども視野に入れた解決策の検討
・いきいき百歳体操や公園体操など、現在展開している住民主体の介護予防活動について、高齢者のニーズを踏まえた展開
・介護予防への取組が高齢者自身または社会全体にとってもたらされる効果、メリットに関する十分な情報提供と、事業内容についてわかりやすい周知と参加を促す仕掛けづくり

■調査結果からうかがえる課題②

4　認知症高齢者支援の推進

・認知症予防と、認知症を早期に発見できる仕組みづくり
・新オレンジプランに沿った認知症サポーターの養成
・認知症カフェの後方支援、認知症ケアパスの配布、認知症地域サポート事業など、さまざまな認知症高齢者支援についての周知、認知症の人の家族への支援やケアの質の向上など、認知症地域支援推進員と連携した取組の推進
・成年後見制度や金銭管理等のサービスなど、高齢者の権利や生活を守る取組の充実
・高齢者虐待防止のための啓発

5　在宅医療と介護の連携の促進

・身近なところで相談できるかかりつけ医等の定着など、在宅療養の推進
・介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者を支える定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護を含む地域密着型サービスなどの適切なサービス提供体制の確立
・終末期医療の希望についての家族との話し合いも意識できるような普及啓発の推進

6　介護者支援

・「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」への介護不安をいかに軽減していくか、在宅介護の限界点の向上を図るための介護者の介護不安の軽減に向けた取組
・現在、何とか仕事を続けている人の介護離職を防ぐための情報提供や相談支援の実施
・介護休業・介護休暇、労働時間の柔軟な選択など、仕事を続けるための制度が使いやすい環境づくり
・男性介護者に対する相談窓口の周知や、男性介護者の孤立防止のための取組
・男性介護者を対象とした家事援助など生活支援の検討
・高齢者虐待防止のための男性介護者への啓発
・通院時のタクシー利用に当たっての交通費にかかる支援のあり方の検討

7　地域包括ケアシステムの中核機関としての地域包括支援センター

・地域包括ケアシステムの構築に向けた地域包括支援センターの役割の強化
・身近な相談窓口としての地域包括支援センターの周知

本調査は回収率が７割を超え、多くのご意見をいただくことができました。本調査にご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

発　行　　**吹田市福祉部高齢福祉室**
〒564-8550　吹田市泉町１丁目３番40号
電話　06-6384-1231（代表）
この冊子は200部作成し、１部あたりの単価は400円です。